

第4章「テスト開発」 pp.93-94 の補足

2.5 Alderson, Clapham, & Wall (1995)

③テスト使用者のためのテスト細目

- テストの誤用を避けるため、細目にはテストの特徴・使用法・限界・対象受験者を明確に記載する必要がある。 誤用例) 学期の最初と最後に TOEFL などの熟達度テストを行う
- また、テスト細目には問題例、指示なども載せておくとよい。さらに、ある得点を取った受験者が言語を使って実際に何ができるのかといった情報も役立つ。過去に受けた受験者の成績結果、その基準、基準の使用法なども記載すれば教員にも学生にも役立つ。

〈アメリカにおける実際の誤用例〉

- 有名なテスト誤用の例として挙げられる事例は、“wall chart” の State school systems のランキング上に、その他のデータと一緒に the Scholastic Aptitude Test (SAT) のスコアを掲載したというものである。なぜ誤用かというと・・・
- ① SAT はさまざまな教育的背景を持つ志望者を、大学の新入生としての個々のパフォーマンスにおいてランク付けするために設計されているテストである。従って志望者が出身高校で受けてきた教科課程や指導や学問的な厳格さは無視されており、志望者が与えられたカリキュラムをどれだけ達成していたかは考慮されていない。従って対象の学校がどれだけ効果的な指導をしているかということの指標にはならない。
- ② SAT を受験しているのは国内の3分の1の生徒に過ぎない。従って国内すべての生徒に提供する、教育の質の指標としては不十分である。

〈参考文献〉

U.S. Congress, Office of Technology Assessment. (1992). Testing in American Schools: Asking the Right Questions. *OTA-SET-519*.